Ⅰ　実践

1　研究主題

自分の大切さとともに,他の人も大切にしようとする思いが具体的な態度や行動に表れるような,実践的な態度の育成

（１）　主題設定の理由

思いやりの心を実際の言動として表現することを大切にし，自分の良さを認めるとともに他者の良さを認め合うことで，より良い人間関係を築いていける児童を育てることを目指し，本主題を設定した。

（２）　研究の内容

①　道徳や生活科，特別活動，総合的な学習の時間における人権教育の充実

②　体験・交流活動ができる場の設定

2　実践内容

（１）　道徳の取り組み

本校では，道徳科の時間に友達との関わりの中で心に響いたことや嬉しいと感じたことをハートフルカードに書いている。そして，学級のみんなに紹介できるハートフルコーナーに掲示することで，多くの感動体験や友達の良さを共感できるようにしている。

（２）　生活科や総合的な学習の時間による体験的な活動

ア　全校での取り組み

敬老会では，４年生が「ライオンとお茶を」などの合唱，５年生はお祝いの言葉の呼び掛けや「ハイタッチダンス」の踊りを発表し，お祝いの気持ちを歌や言葉などで表した。また，敬老会でお年寄りに贈るお祝いの手紙を書く活動を，１年生から６年生までの全校児童で取り組んだ。

イ　総合的な学習の時間による取り組み

５年生では,「人にやさしく」をテーマに人権尊重の教育に関わる内容を体験的に学んでいる。福祉体験では，車イスやアイマスク，高齢者の疑似体験などの活動を通して，体の不自由な方や高齢者の日常生活の大変さを知り，社会的弱者や困っている人にどのような手助けができるか学んだ。

ウ　生活科による取り組み

１，２年生による「諏訪小フェスティバル」を行った。２年生が主体となって，野菜づくりの体験を発表したり遊びコーナーに１年生を招待することで異学年の交流活動を楽

しく行った。

（３）　その他の活動

ア　あいさつ運動

ＪＲＣ委員会を中心に，毎朝，昇降口であいさつ運動を行っている。給食時間の放送で，「元気にあいさつを返してくれた人数」「元気な声であいさつをした児童の名前」の発表をすることで，全校児童が元気なあいさつができるように活動を続けている。

イ　縦割り班活動

月に１回ロング昼休みの時間に縦割り班活動を行っている。全校児童を１２のグループに分け，年間を通して様々な集団活動に取り組むことによって，異年齢児童相互の親睦を深めたり，他者への思いやりの心を養ったりすることを目指している。

ウ　集団登下校

年間を通して高学年が班長・副班長をして列の先頭と最後尾について，下級生の歩調に合わせながら安全に登下校している。朝，放課後ともに保護者や地域の方の協力をいただきながら，安全の確保に努めている。

３　成果

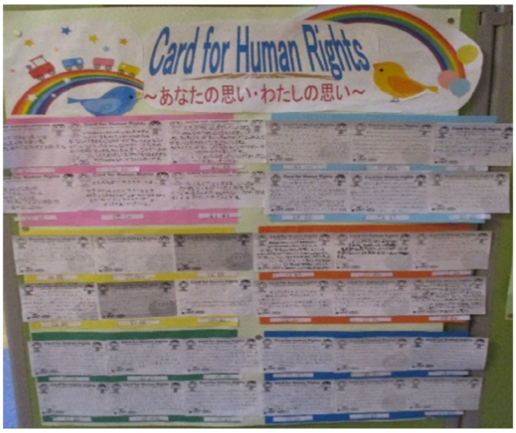
児童は，敬老会のお祝いの手紙や体験的な活動後の感想などから，周りの人に対して，思いやりの心をもって接することができるようになってきている。また，学校内外での様々な体験活動の中でクラスメイト以外の幅広い年齢層との関わり合いから，自分の良さや相手の良さに気付くことができるようになってきていることがハートフルコーナーの掲示物から感じとれる。さらに，高学年は「縦割り班活動」などの異学年交流を通して，低学年のことを考えた行動ができるようになってきた。

Ⅱ　今後の課題

来年度も引き続き，道徳・特別活動・各教科などの教育活動全体を通して，人権教育を推進していきたい。また，体験活動で養われた人権意識がさらに豊かに育っていくよう学校だけでなく，地域，家庭が協力・連携し合って，児童の一人一人の良さを地域社会全体で認められる環境作りに努めたい。

Ⅲ　人権コーナー設置の様子

本年度も全校児童が「人権メッセージ」に取り組み，人権コーナーに各クラスの代表のメッセージを掲示した。さらに，全学級に「ハートフルコーナー」を設置し，道徳の時間などを活用して自分の感じたことや友達の良さを伝え合った。また，帰りの会では友達の良いところや嬉しかったことを伝え合う活動も行った。この活動を通して児童一人一人の自己有用感が高まった。



「人権コーナー」と「ハートフルコーナー」の様子